

瀬戸内海沿岸部におけるネズ（ヒノキ科）花粉の飛散状況

○檜垣義光（今治精華高校・生物）

樋口宜寿（(財)日本気象協会四国支店）

伊関孝一（宇和島市立津島病院検査科）

1. はじめに

ネズ花粉については今まで花粉誌・備讃空中花粉研究会誌などで報告されている。それらは主にネズ花粉の概念、ネズ花粉症の検討や岡山県と広島県のネズ花粉の飛散状況などに限定されており、四国地方を含めた瀬戸内海沿岸部での研究はほとんどなされていない。そこで、四国地方の愛媛県、香川県、山陽地方の岡山県、広島県、山口県でのネズ花粉の飛散状況について知見を得たので、報告する。

2. 対象と方法

まず、備讃空中研究会誌に報告されている1997年から2003年の7年間のデータを用い、2004年のデータは直接調査者より得た。花粉観測地点は四国地方の愛媛県、香川県各2地点、山陽地方の岡山県、広島県、山口県各1地点合計7地点である。

次に、瀬戸内海沿岸部の各地点で3月末から4月下旬までのヒノキ科花粉の飛散の第一ピークと第二ピークの真ん中をネズ花粉飛散開始点とした。その推定値を用いてネズ花粉について検討を行った。また、スギ・ヒノキ科花粉数に占めるネズ花粉数の割合を計算し、ネズ花粉率（%）とした。

3. 結果と考察

ネズ花粉の飛散結果と考察は以下の通りである。

- 1) 今治市の過去8年間のスギ・ヒノキ科花粉数をみると、各年次により飛散数が著しく異なり、ほとんどの年次はスギ・ヒノキ・ネズ花粉の3つのピークをもって飛散していることがわかる。
- 2) 今治市のネズ花粉数は、スギ・ヒノキ科花粉数と比較して少なく1日50個以下の少数飛散がほとんどである。また、多い飛散年と少ない飛散年をくり返している。
- 3) 愛媛県、香川県、山陽地方のスギ・ヒノキ科花粉数とネズ数の年次別推移を比較してみると、スギ・ヒノキ科花粉数に連動してネズ花粉数も多い年と少ない年をほぼ1年ごとにくり返している。しかし、ネズ花粉数の変動幅はスギ・ヒノキ科花粉数ほど大きくはなく、毎年一定量は飛散している。

これは、たぶんネズ花粉の飛散は気象条件などの影響を受けにくいものであると考えられる。

- 4) 愛媛県、香川県、山陽地方のネズ花粉率（ネズ花粉数÷スギ・ヒノキ科花粉数×100）の年次推移もあわせて比較すると、ネズ花粉率とスギ・ヒノキ科花粉数とは逆の相関関係で推移している。すなわち、これはスギ・ヒノキ科花粉数に対してネズ花粉数の変動幅が少ないのではないかと思う。

これは、やせ地の指標植物となっているネズは悪い土地条件でも確実に花粉を飛散させているのではないかと推測される。